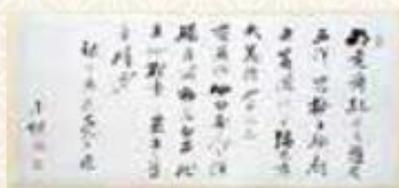




没後 150 年(生誕 210 年)シリーズ ⑤

熊本・沼山津の偉人

横井小楠



「送別の語」

熊本市寄託 横井和子氏蔵

堯舜孔子の道・小楠の世界観

慶応2年(1866)4月、横井小楠の甥左平太・大平兄弟が米
国留学のため、長崎から船出しました。小楠は、その出発に当
たって、2人にはなむけの言葉を与えています。それは「堯舜
孔子の道」の書き出しではじまる「送別の語」です。

小楠は、将来の状況を見越して、亡くなった兄時明の子である左平太・大平を国家のために役
立つ有能な人材に育て、西洋のことを実地に学ぶことを勧めたいと心に決めていました。そこ
で、元治元年(1864)四時軒を訪れた坂本龍馬を介して勝海舟に2人を預け、神戸の海軍操練所
に入所させたのです。しかし、翌年の慶応元年(1865)海軍操練所が閉鎖されたため、2人は長崎
に移りました。長崎語学校に通って英語の勉強に励むうち米留学を志し、翌年4月、渡米が実
現しました。甥の左平太22歳・大平17歳、小楠58歳の時です。

この時、小楠は「送別
の語」を2人に与えまし
た。これを要約すると
「これからの日本は、古
代中国の聖天子といわ
れる堯・舜・孔子が行っ
た道徳的政治を基本に
据えて、西洋の科学文
化を積極的に取り入れ
なければならない。そ
して、単に富国強兵で
終わるだけでなく、日

明堯舜孔子之道
尽西洋器械之術
何止富国
何止強兵
布大義於四海而已
有逆於心勿尤人
尤人損德
有所欲為勿正心
正心破事
君子之道在脩身

堯舜孔子の道を明らかにし、
西洋器械の術を尽くす。
何ぞ富国に止まらん、
何ぞ強兵に止まらん、
大義を四海に布かんのみ。
心に逆うこと有るも人を尤むること勿れ、
人を尤むれば徳を損ず。
為さんと欲する所有るも心を正にすること勿れ、
正にすれば事を破る
君子の道は身を脩むるに在り。

本が先頭に立って正義人道を世界に広め、真の世界平和を作らなければならない。」と強調して
います。特に、前半の語句は、小楠の理想と信念を簡潔に表したものとと言えます。後半は、2人の
人格形成に関する内容です。当時の海外出国は国禁でしたので、2人は乗務員(水夫)として、便
船によって渡航しています。2人は航海学校などに入学し、学業に実地訓練に意欲的に取り組み
ましたが、明治2年(1869)末に肺結核にかかった大平は単身帰国しました。帰国後の大平は、洋
学校設立と外国教師招聘のために奔走し、ジェーンズを洋学校教師として招くことができました
が、それを見ずして亡くなりました。左平太は、一旦帰国し、結婚して短い新婚生活を送ったの
ち、学業を続けるため再度米国に戻りました。1875年に再帰国し政府に元老院権少書記官とし
て出仕しますが、肺結核のため同年31歳で死去します。

※最終回は、「小楠の死と小楠顕彰」について紹介します。

※秋津公民館では小楠に関する講演会を1月まで、小楠の漢詩についての講座を2月に行う予定
です。

文責 横井小楠記念館長 中島 勝則
(秋津公民館 ☎096-365-5750)